

MATRICE210 RTK V2



空撮による点検や調査、データ収集に特化した産業用ドローン。

現場ニーズに応える機能、「操縦性・安定性・点検効率」を大幅にアップ。

さらに高性能、高倍率の30倍ズームレンズ、

4K & 赤外線カメラなど多彩な撮影カメラが実装可能に。

MATRICE FEATURES

豊富なカメラバリエーション



Z30

赤外線

デュアル

光学30倍ズームレンズや、赤外線カメラなど用途に合わせて使い分けが可能。

過酷な環境でも飛行可能



気温が低い場所、橋梁の下、風力発電のような強風の場所でも安定した飛行撮影が可能。

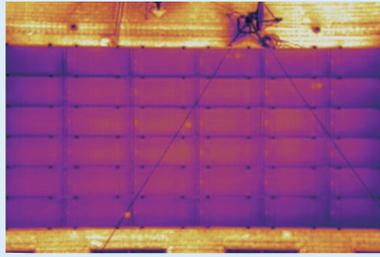
ドローン初 防水性能



従来であれば雨が降った中でのドローン飛行は機体がショートし墜落の危険性が高かったが、多少の雨でも飛行が可能。

MATRICE TARGET

ソーラーパネル点検



広大なソーラーパネルの点検はコストと時間がかかる。空からの点検は包括的な確認を行うことができ、ドローンに実装しているサーマル(熱検知)カメラと光学カメラにより温度差による異常を空から検知。同時にパネルの写真を撮影し、すばやく現地の状況を把握することができる。

屋根のドローン点検

民家の屋根を点検するには作業者が実際に屋根に登らなければならない、落下の危険があった。ドローンを使えばモニターを見ながら点検が行なえるため、格段に安全性が向上する。



橋梁の点検



リフト車のゴンドラに乗って人が目視で行っていた作業は、手間がかかり多くの危険を伴っていた。一般的な点検と異なり、橋梁は下側から撮影をする必要があるため、機体上部にローター(プロペラ)を備える市販のドローンでの作業は接触などの際に墜落するリスクが高く敬遠されがちであった。しかし、機体上部にカメラと照明装置を付けて安全な点検作業が可能になった。

ビル壁側のドローン点検

ビルなどの外壁の劣化診断は建物や建材によって異常音が違い、聞き分けられるようになるための経験が要ることや、足場や高所作業車、仮設ゴンドラを使う必要があるため作業コストが膨大となっている。

これまでの方法に対してドローンとサーマルカメラを使用すれば、足場要らずで常に一定の距離と角度からビルの壁面の温度を測れるため、より早く正確に修理が必要な場所を特定し、大幅なコストダウンが見込まれる。



送電線・鉄塔・ダムへのドローン点検



送電線や鉄塔は人里離れたアクセスが難しい場所に設置されることが多く、高所かつ高圧電流のそばという危険なコンディションでの点検が必要であったが、ハイリスクな作業をドローンで代行することで、安全性を確保しつつ効率的な検査が可能になりつつある。

風力タービンのドローン点検

風力発電用のタービンは定期的な点検が欠かせない一方で人が登るにはリスクが高い。海上にタービンが設置されている場合も多く、このような設備の点検にはドローンが最適である。



状況の認識力強化で人命救助

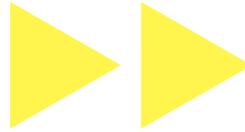


空撮映像で救助活動をより適切に指示できるため、救助チームは迅速かつ安全に緊急事態を緩和することができる。

MATRICE MERIT



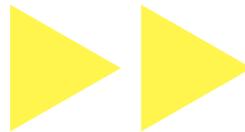
安全性の向上



マトリス210RTKなら遠隔調査を行うことができるので作業員が危険な場所に入ったり直面したりする必要がない。



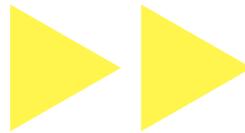
作業効率の向上



これまで数日間かかっていたような作業も短時間で終わることができる。



コスト削減



足場や高所クレーンが不要となり、それらにかかる費用を削減できる。マトリス210RTKに必要な人数は1台につき2~3人で済むので人件費削減にも貢献できる。

今までの常識を超える安全と費用対効果が期待される

ZENMUSE XT(赤外線カメラ)+Z30(30倍ズームレンズ)付

料金

フライト回数制限なし
1日単位の料金設定

300,000円/日
(税別)

※3名体制

※撮影箇所 無制限

※交通費 別途